



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065 編集 早川清志 題字 島崎洋路

『丸太は静かに競り落とされていった』

通年コース第十一・十二回開催報告「見学・枝打ち」

たまたま森林塾の見学の日が長野県森連伊那木材センターの市売りの日だったため、初めて実際の入札を見させていただくことが出来ました。お魚市場のような

喧騒を思い描いていた方もいたかと思うのですが、口競りではないので、センターの板の間には「次は六番から十番までお願いします」とか「三万五千円落札

ありがとうございました」という田口さんの声がよく響くのみ。買

い方の製材所や材木屋さんの親方達は十四人で、メモなどをとりつつ静かに札を差し出し、百八十を超える丸太の山、桧のほとんどがが一時間足らずで競り落とされていき

ました。現場には来ず、置き札で競りに参加する親方達も多く、今回の買入方は四十名で、プラス「さくら」が約二十名、人数的にはまあまあの盛況だったようです。価格的にはどうやら安値安

定のように、大野田所長が説明してくれました



大野田所長が時間を割いて説明してくれました



ヒノキ元玉4m22 - 28さてなんぼ



向かって右側はほとんど「さくら」。販わいには貢献したか

「材は水の中につけて置くのが一番良く乾きます」一瞬ぽかんとしてしまいました。説明を伺うと、そういうものかと、な

午後には「64樹種の薬だんす、どんな木にも何らかの使い道」と新聞にも紹介された有賀建具店さんを訪ねました。お忙しい中、仕事場をお掃除して迎えてくれました。相変わらず「さくら」が約二十名、人数的にはまあまあの盛況だったようです。価格的にはどうやら安値安

明してくださったように、市況の目安となる、ヒノキ三メートル中玉、末口十六センチから十八センチが三万八千円、一本でいうと二千八百円から三千円というところ



親方の相変わらずの蘆蓄話



新聞に載った薬だんすもあった。いいなーこれ!

を握り締めて競りに参加してみますか。

『水の中が良く乾く』

「丸太は長所を見て買う」と

親方の仕入先はチップ工場が50%、市場で20~30%、残りは材木屋さんなどですが、買うか買わないかの判断は長所があるかどうか。なにせ自然が作り出したもの。完璧な丸太というものはありません。どれだけ良いところがあるか、素晴らしい点があるか、それが親方の判断の基準だそうです。欠点は見始めたらきりが無い。そんなところばかり見ていると、やけにその欠点が目に付いてしまい、できた製品は納得のいかないものになりがちだ、と言うお話。

親方の仕入れに連れて行ってもらうて見せていただかないと具には理解したいところですが、人付き合いとか教育とか、子育てにも



ポツポツ来たが誰もやめようとしな。蟬人間たち

通じそうな蓋蓄のあるお話です。広葉樹サンブルや木においただよう中、コーヒーとケーキのサービスもあり、すっかり寛いでしまったので、おいとまする時は後る髪を引かれる思いでした。

通年コース第十一回

9月19日(金) 見学

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。先生のあいさつ、日程説明。市売りが12時からなので小屋で最近の市況と市の概要説明
10時15分 車に分乗して伊那市東春近渡場の長野県森林組合連合会伊那木材

センターへ。市当日なので遠慮していたが、大野田所長さんが「30分くらいならいいよ！」と忙中急遽、市の説明をしてくれる。その後出品された樅を各自明細表などを見ながら価格を予想する

12時

市売りが始まった。参加した買い方は14名だが、二十余名の塾関係者を加え、会場は満杯となる。熱く静かに競りが進む中、「さくら」たちは気軽に弁当を使い出す

12時50分

競りは終わったが所長や田口さんと個別談判の買い方さんも。値段が決まったヒノキ

やアカマツの樅をもう一度眺め、有賀建具店に向かう。所長さん、田口さん、柴さんと買い方の皆さん、お邪魔しました。ありがとうございました。コーヒーとうございました
2時 伊那市西箕輪吹上の有賀建具店に着く。なぜかペチ力が暖かい。「掃除して木屑燃やしたんですよ」親方の話が始まった。カラマツの折り畳み椅子に座り、木の見本も見せてもらいながら樹種ごと

の特徴と用途を聞く
3時50分 お邪魔しました。コーヒーとケーキご馳走様でした。解散



『その枝打ちは何のため?』

待て、「目的」は?

保科先生がお話の中で強調されていたこと、「枝打ちは目的を明確にしてからやってください」ということは、よく考えるとなかなか難しい事でもあると思います。ヒノキやスギを植えて、二十年もすると、少し込んだきたな、間伐しなくちゃ、という状態になります。間伐後、とりあえず枝打ちでもしておか、でもいいのですが一寸

これも先生が言われるように、枝打ちは付加価値を上げる施業ですので、材に傷を残すようないい加減な枝打ちは論外として、どうせやるなら最も効果的な時期に、最も効果的な方法でと言う事でしょう。柱材生産のための枝打ちなのか、柱は三寸五分なのか、四寸を狙った柱をかけたも目の詰まった柱を作りたいのか。あるいは死に節の出ない大径材を作りたいからなのか、自ずと方法も違ってくるという事らしいですね。するともうこの時点でどんな素材にした



枝打ちは目的を明確にしてやってください



ヒトの背中でアイ作るなよな!

いか決めての施業が好ましいということになる。目的を何十年も変えずにヒノキやスギを保育していく事はやはり相当難しい事ではあるなと思う次第です。二日目は台風の進み具合を気にしながらの、ぶり縄づくり、枝打ちでした。おかげさまで本降りになる前に一通り終える事ができました。覚えたら便利なロープのアイ加工、それに手木をつけてぶり縄の出来上がり。それぞれの皆さんにマイぶり縄を持ち帰っていただきましたが、だめですよ。街の中の公園で木登りの練習して



手木を通してぶり縄完成

9月20日(土) 枝打ち

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。保科先生のあ

いさつ、日程説明。まずはロープのアイ加工。「今年の塾生はおぼえがいいね」とはOBの佐藤さん。園田さん、椎名さんあたりを最後に両端にアイができる。続いてあらかじめ用意してあったネジキ、カエデ、エゴ、リヨウブなどを手木にしてぶり縄完成

10時

小屋隣のヒノキ、サワラ林で木登り練習。道具は作ったばかりのぶり縄です。いい大人たちははしゃぎよう。でもこれは幾つになっても面白いよね。少しの練習でみんな上手に登れるようになりました。なかで小栗さん、さすが身が軽い。二段目以上登る際には

11時40分 ちよっと早いお

昼にして
12時20分 分乗して伊那市野底公民館上の私有林へ。

胸高直径15cmほどのヒノキ林。今のうちに枝打ちをしておかなければという林です。保科先生の、枝打ちの目的や方法についての説明の後、枝打ち開始。あらかじめイントラ後藤さん、川島さんが保残木にマークしてくれてありその数およそ80本。小雨が降り始めてきましたが、終わるかな？病み上がりの永井さんもそんな気配を感じさせない奮闘ぶり

2時30分 雨脚が少し激しくなってきた。これはもう本降りだ、という事務局の判断で、今日はこれまで。なんと、ノルマほぼ達成です。お疲れ様でした。大部分の方は小屋まで戻りますが、とりあえずここで解散

参加者/相内さん、井伊さん、大河内さん、小笠原さん、岡崎さん、小栗さん、小野さん、椎名さん、重松さん、園田さん、滝口さん、武田さん、永井さん、西村さん、日比野さん、茂籠さん、矢島さん、佐藤さん、長坂さん
講師/保科先生、島崎先生
スタッフ/後藤、川島、坂野
早川

次回以降の予定

専門コース第3回開催
10月2日(木)～4日(土)

いよいよ最終回三回目の開催です。安全に確実に狙ったところに倒す。今回が仕上げです。8時30分島崎先生の小屋集合。現場は駒ヶ根の予定です。両先生の担当は初日の2日(木)です。

第十三・十四回
測量・林道設計

10月17日(金)・18日(土)
小屋の周辺で広さ大きさ、傾斜を測ってみます。そして地図を作ってみましょう。二日目は現場を測量した上で林道の設計、これを歩道として開設します。8時30分小屋集合。担当は二日間とも島崎先生です。

集中コース秋の部

10月30日(木)
～11月1日(土)

樹木分類、測樹から伐出まで森林塾のエキス盛りだくさんの三日間です。只今塾生募集中。締め切りは10月10日(金)です。

両先生の担当は初日の30日(木)です。



緑を守る一人に
関川 桂太郎

今年の夏の集中コースに参加させていただきました。関川です。私は農業土木に関連する仕事に就いています。が、転勤の多い職場で、最初に北海道それから沖縄宮古島、そして現在群馬県沼田に移り住んできました。

もともと、アウトドアが好きで北海道では(決して本格的なものではないのですが)溪流釣りやカヌー等で遊んでいました。六、七年前の事です。道東のある川で溪流釣りをしたのですが、素人同然の私でも数十匹の釣果があり、なかには尺寸に近いイワナも釣れたことがありました。しかし、翌年、同じ場所に行ったのですが全く釣れませんでした。付近で護岸工事をやっていたことが、原因であるらしいということが後で知りました。
三年前まで住んでいた宮古島には川がないため(琉球石灰岩という透水性の非常

に高い珊瑚が化石化した母岩であるため、雨はほとんどが地下に浸透してしまう)、沖縄本島で問題となっているような土砂の流出は少ないといわれています。そのため、海は濁りが少なく、よく潜って珊瑚の美しさを楽しんでいました。しかし、数年前、珊瑚のほとんどが真っ白になってしまふという現象がおきました。これが、異常気象により海水温度が上がって珊瑚が死滅する白化現象で、地元の人々も驚くような状態でした。

北海道、宮古島どちらも規模の違いがあがるにしろ人間の活動が影響していると思われまふ。目の当たりにするとショックは大きく、自然や環境についてももっと考えていかなければならないと実感しました。

一方、農業土木の仕事はやはり開発が主であり(開発による利益も当然あるので)、自分の仕事と自然や環境を大切にしたいと思うこととに矛盾を感じることも

あり、まずは少しでも関連した知識を得たいとピオトープやグリーンセイバー、森林インストラクター(こちらは今年受験しましたが撃沈しました)等の勉強を少しずつしてきました。

そこで、「日本の森林が危ない」というフレーズがよく出てくることに気付きました。しかも、人間が伐採しすぎて危ないのではなく、人間が森林を放っていることが問題であるというのは驚きでした。今まで、人間の手が入ることで自然環境は悪くなるものだと思っていました。

群馬県という森に囲まれた環境で暮すようになったこともあり、もう少ししっかりと森について現場レベルでの勉強をしてみたいと思うようになり、岐阜県の森林文化アカデミーの受験も考えたのですが(この時はまだ島崎先生のご事は存じ上げませんでしたが)、妻子がいる身で2年間の学生生活には踏み切れずじまいでした。

た。森林塾に実際に参加して、三日間がとて短く感じた充実した時を過ごすことができました。島崎先生の森林業についての講義を聞き、改めて日本の森林に手を入れないと森がいよいよ危ないことを知りました。現場と一体になって活動されてきた先生の講義は迫力がありました。

それから、間伐では、森の健康診断をして施業計画の立案方法を立てるという手順を踏んだ講義により、なぜ、どのくらい、どのような状態の森にするために間伐をするのかを明確に教えてもらったため大変おもしろかったです。

実際の間伐を自分でやってみると、チェーンソーを始めて触る身には立木を切ることがどれほどハードか思い知らされました。全身に力が入っているせいか一本切り終わると汗びっしょりで、その後、枝を落とし終えた後にはヘトヘトでした。スタッフの方々の丁寧な指導とできるところはどんどんやらせてくれたおかげで満足いく講習でした。どうも、ありがとうございました。



そんなおり、立ち読みしていた本でKOA森林塾のことを知りました。早速、インターネットで調べてみると、本格的で理論から現場までしっかり初心者でも教えてくれるという印象を持ち、すぐに入塾を申し込みました。今回の塾で島崎山林研修所尾瀬山林塾さんそうほうの会が開設されることを知り、今住んでいる所



身近に自然を 感じるように

長谷川 義教

こんにちは、夏季集中コースを受講した長谷川です。心配した雨やケガもなく日程どおり無事作業も終了する事が出来て森林塾のスタッフの皆さんには感謝しています。ありがとうございます。

私は、富士山の麓に住んでおり毎日、富士山を眺めて暮らしています。そして「自然が好き!」、「山が好き!」、「森が好き!」、「木が好き!」人間です。趣味は写真撮影、山登り、山菜、キノコ採り

からすぐ近くの群馬県片品村が拠点になるということや代表の椎原さんが隣村に住んでおられるということを知り、縁のようなものを聞いて、是非こちらの会にも参加させて頂きたいと思っています。

交流会の中で先生がおっしゃられた「山造りはそれほど難しいものではないが、遊びの要素が主なボランティアでは森は守れない。やはり、真剣に森造りに取り組む人が必要である。」という言葉がなかなか定まらずにいるのですが、山を守る担い手の一人になれたらと思っています。

これからも、よろしくお願います。

等です。そんな事で山、森、木、自然の事がとても気になります。

長く風景を撮影してきて、撮影を始めた当初と比較して風景写真として撮影出来る自然が、年々減少し、また荒廃していく様を見るにつけ何とかならないものかと思っていました。

また、風景との出会いの中でたくさん感動やときめきを、私に与えてくれた自然に、少しでも恩返しが出来ればと考えていました。しかし、一人でどのような方法で対処したらよいかわからず、何年かが過ぎました。

ある時、自分の身近な林や森も見ると木はモヤシみたい、林や森の中は薄暗く、また地面には下草も生えていなく土が剥き出しの状態でした。そんな林や森に入っていると何か林や森が助けを求めているように感じられました。しかし、その時私に

は林や森を助ける技術や知識もなかったのです。そこで、県の林業研修講習教育(一週間)を申し込み受講しました。

受講後、もつといういるな林業技術や知識を身につけたいと図書館へ行っては、林業関連の本を探している時に、出会ったのが島崎先生の『山造り承ります』でした。本を読んでいくうちに自分が求めていた(身につけたかった)ものは『これだ!』と確信しました。早速インターネットで申し込み方法や受講内容を検索して申し込みました。当初は通年コースを受講したかったのですが、都合により夏季集中コースに変更して頂きました。

以前から「富士山の森、再生ボランティア」活動での下草刈りや植林作業への参加や、「ギフチョウ保護の会」の参加により、里山復活活動によるギフチョウの再生を目指して、放置林の間伐による

下草の育成と食草の生育環境の改善、ギフチョウの生育範囲の拡張を狙った広葉樹林への樹種変換と生育環境の改善等の地道な活動に参加して汗を流しています。これらのボランティア活動に積極的に参加する事で自然への恩返しをしている積りです。

思い上がりかもしれませんが今の私にはこれ位の事しか出来ません。これから自然関連のボランティアがあれば自分が出来る範囲で積極的に参加していきたいと考えています。もつと森や林、木や自然の事全てを勉強して自分の身近に自然を感じていたいと思っています。

昨年、会社を退職し、第二の人生を林業または自然に関連する仕事につけたらと考えています。これからもKOA森林塾のスタッフの皆さんにはお世話になるかと思いますがよろしくお願ひします。

自然との距離が遠のいている状況ですが、少しでもその距離を近くに感じる人が多くなれば、林業や自然を取り巻く諸問題も少しずつ良い方向に向かっていくと信じて終わります。

コラム

先週あたりから、めっきり涼しくなりました。先日の雨の日は寒くて、早々とコタツがお目見えいたしました。

耳を澄ませば静かな夜に鳴く虫たちの声も何時の間にか変わって、ギョウチョン・ギョウチョンと鳴くキリギリスやスイッチオン・スイッチオンと鳴いていたウマオイの声はもうなく、コロコロリーリーと鳴くコオロギやフリリリーと鳴くクサヒバリなどになっていきます。

幾重にも重なって聞こえてくるコオロギ達の音色は、牙え牙えとしていて、何となく物思いにふけてみたりするのであります。

嘘子

塾生からお知らせ

同窓会準備委員会の開催KOA森林塾も今年で十年目になりました。そこで来年4月29日に「10周年記念同窓会(仮称)」を開催するため、下記のように「準備委員会」を開きます。お時間とお気持ちのある現役塾生・OB・OGはふるってご参加ください。日時:10月18日(土)PM2:00~6:30(遅くともこの時間に終了予定)場所:島崎先生の小屋内容:塾生・OB・OGへお送りするアンケートをもとに、来

年4月29日に行う予定の「同窓会」の内容を決めます問合せ:木村まり(九期生) e-mail: m.kimura@koanet.co.jp または FAX:03-5814-5332

「山がないので勉強できないよー」という人集まるー愛知県豊田市小峯町付近の山林において、林業に関する知識、技術等のバージョンアップを希望する人でKOA森林塾または他の林業講座終了者、山師OB加納英雄氏の指導、今年10月19日、11月23日、12月7日の予定。問い合わせは〒470-0308 豊田市小峯町川田260 とよた森林ボランティア tel&fax 0565-42-0773 岡崎(十期生)

おわりに

そろそろキノコの季節の季節ですが、9月前半が随分暑かったため、この辺りまだ期待したほどではないようです。でもそろそろかな。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994



E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp sh-sakano@koanet.co.jp 携帯:090-4463-0062 (開催日) H.P.http://www.koanet.co.jp